

2020 年度
自己点検・評価 報告書

学校法人 麻生塾

麻生情報ビジネス専門学校 北九州校

自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、麻生情報ビジネス専門学校北九州校の2020年度の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

作成日 2021年 2月1日

校 長 富田 博之

自己点検・評価責任者

校長代行 亀谷 弘幸

目 次

I	教育理念・教育目標（人材育成像）	- 3 -
II	重点項目	- 4 -
III	基準項目 自己点検・評価	- 6 -
	基準 1 教育理念、目的、人材育成像	- 6 -
	基準 2 学校運営	- 7 -
	基準 3 教育活動	- 8 -
	基準 4 学修成果	- 13 -
	基準 5 学生支援	- 14 -
	基準 6 教育環境	- 15 -
	基準 7 学生募集	- 17 -
	基準 8 財務	- 18 -
	基準 9 法令遵守	- 19 -
	基準 10 内部質保証	- 20 -
	基準 11 社会貢献・地域貢献	- 21 -
	基準 12 国際交流	- 22 -

評価結果

S：達成度がきわめて高い

A：ほぼ達成している

B：達成がやや不十分であり、若干改善を要する（要観察：放置すると不適合になる）

C：達成は不十分で改善を要する（不適合）

I 教育理念・教育目標（人材育成像）

教育理念

1. 深い専門知識と高い技術力を持ち、自己研鑽に励むことのできる人材を育成します。
2. 多様な価値観を受入れ、豊かな感性を伸ばし、自己成長できる人材を育成します。

教育目標

【コンピュータシステム科】

IT業界でコンピュータエンジニアとして活躍するために必要な知識や技術を身につけ、ソフトウェア開発企業や一般企業のシステム開発部で活躍できる人材を育成する。

【システムエンジニア科】

IT業界で高い技術力を持ったエンジニアとして活躍するために必要な知識や技術を身につけ、高度情報化社会の中で活躍できる人材を育成する。

【ゲームクリエイター科】

ゲーム開発に必要な各種プログラミング言語などの知識や技術を修得し、ゲーム業界やIT業界で長く活躍できる人材を育成する。

【オフィスビジネス科】

多様化するオフィス環境に即戦力として対応できる人材となるための専門的技術、知識、検定資格を身につけ様々なビジネスシーンで幅広く活躍できる人材を育成する。

【CGデザイン科】

クリエイティブ業界の業務に必要な知識と技術を身につけ将来業界人としてプロ意識を持ち活躍できるマインドを持つ人材を育成する。

【CGクリエイター科】

より高度な目標を見据え、クリエイティブ業界の業務に必要な知識と技術を習得し、将来業界人としてプロ意識を持ち活躍できるマインドを持つ人材を育成する。

Ⅱ 重点項目

1. 重点項目

- ① 法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像について、一部、在校生への周知徹底が不足しているため改善を行う。
- ② 教育課程を体系的に編成するために「カリキュラムツリー」を整備・作成する。
- ③ 自己点検・評価を実施し、継続的に課題解決に取り組むことの必要性について教職員への周知徹底を行う。

2. 取組み状況

- ① 新入学生へは学校説明会、新入生オリエンテーションなどの行事開催時に学校グループのホームページへの掲載を告知することで周知を図った。ただ、2・3年の在校生に対しては、年度初めの授業開始時にシラバスを提示、「法人の理念」、「学校の教育理念」を伝える予定であったが、コロナの影響により年度当初から告知する予定が、対面授業再開後になってしまった。
- ② 昨年度までに整備した3ポリシー（アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー）の基づき、教育課程を体系化した「カリキュラムツリー」の整備・作成を行った。
- ③ 継続して自己点検・評価活動についての可視化への取組みを行い。また教職員への自己点検報告書など関連資料の回覧、所在の明確化を行うなどして周知徹底した。

3. 総括（成果と課題）

- ① 今年度、法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像について周知・徹底する予定が年度当初ではなく、対面授業以後になるなど遅れが生じてしまった。次年度も行事・授業がオンラインで実施される可能性も高いため、新入生、在校生問わず、年度当初からオンラインを通じての周知・徹底する手段を考える。
- ② 学校独自の書式による各学科のカリキュラムツリーは作成できた。ただ今後学校グループとしての統一フォーマットによる作成が望まれる。また、以後カリキュラムが微修正、再編成されるなどの可能性も残されているため、変更時は随時更新していく必要がある。
- ③ 自己点検・評価活動については、随時小倉校舎の教職員にその活動の必要性について「自己点検・報告書」作成時、内部監査を通じての「改善計画・報告書」作成時などにメールによる回覧を行った。しかし、教職員によっては、まだ内容の認識に対しての濃淡が散見される場面があるため、より確実に可視化を行い、認識を深めていく必要がある。

Ⅲ 基準項目 自己点検・評価

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

中項目 1-1

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【総括】

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像について明文化され、学校グループのホームページへ掲載されたものを通じ、各教職員から学生・保護者・企業へ周知を図った。

【課題】

コロナ禍の中、オンライン授業などを先行実施した後、対面になって実施した。そのため周知はできているが徹底が不足している。

【今後の取組み】

コロナ禍で想定していたタイミングでの周知ができず、徹底不足の面が見受けられるので、継続して、在校生への周知徹底を図る。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
1-1-1	「法人の理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	A
1-1-2	「学校の教育理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	A
1-1-3	各学科の教育目的および育成人材像を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	A

基準 2 学校運営

中項目 2-1

学校の理念に沿った運営方針を定め、規定通りに運営しているか。

【総括】

理念に沿った運営方針を定め、規定通りに運営できている。これらの周知には校長代行からリーダー、各教職員へと共有している。運営向上のための意思決定等は効率よく実行に移すことのできる仕組みになっている。運営に使用される業務管理システムも、改善活動が継続して行われ、変更の際にはシステムを使用する研修を全教職員と事務職員で参加している。また今年度は、新型コロナウイルス感染予防の観点で各種対応を行っていたが、人事に関する規則面についても同様に対応を行っていった。各規則については適時共有を行い、運用整備を進めた。

【課題】

新型コロナウイルス感染予防対策や働き方改革に伴い、現状の規程と実態との乖離が見られる部分が出てきているが、学校運営はほぼ規定通りに行われており、事務組織も機能している。しかし、事務職員の役割分担など明記された資料の提示がなく根拠が明確にならなかった。第三者への根拠を示す資料の必要性についての意識が不足していた。

【今後の取組み】

学校業務を支援する事務組織の役割分担を明らかにする役割表を制作した。今後も業務の可変や異動等が発生した際に更新を行っていく。

事務職員の研修参加資料に関しては、教職員と同様に年度内に受講する研修を年度初めに研修参加計画表を作成する方向で進める。

また、社会環境の変化と共に人事に関する制度改革が求められるフェーズにあり、2022年度からの新制度施行に向けて着手し始めている。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
2-1-1	運営方針を策定し周知しているか。	S
2-1-2	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	S
2-1-3	運営組織や意思決定システムを整備し、また有効に機能しているか。	S
2-1-4	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか。	S
2-1-5	人事に関する制度を整備しているか。	S
2-1-6	教職員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。	A
2-1-7	給与に関する制度を整備しているか。	A
2-1-8	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	S
2-1-9	事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか。	A

基準 3 教育活動

中項目 3-1

教育理念、教育目的および育成人材像に沿った教育課程を編成・実施しているか。

【総括】

教育理念、教育目的および育成人材像に沿った教育課程を編成・実施できている。授業の内容はコマシラバスとして Web サイトで公開。詳細内容を授業実施前に学生へ向けて公開している。

また法人規定にも則っている。連携企業、校長代行、教職員による教育課程編成委員会も実施しており、教育課程を定期的に見直し、向上を図っている。

【課題】

ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーについては用意しており特に問題はない。今後はめまぐるしく変化を続ける業界に対応するように、各学科で検討し、必要であれば修正していく。

【今後の取組み】

カリキュラムポリシーに関しては学科ごとの専門性を考慮して、本年度は学科別に用意した。それらに基づき業界の第一線として働くことのできる人材を教育できるよう教育課程を編成していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-1-1	教育目的および育成人材像に基づきディプロマポリシーを明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S
3-1-2	教育目的および育成人材像に基づき教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）を明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S

中項目 3-2

教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。

【総括】

学校教育法に定められた授業時間数を満たすカリキュラムを体系的に編成している。教育課程編成委員会などで企業等からご意見をいただき、業界ニーズにあわせた授業を実施するためにカリキュラムの一部を改変し、より充実した授業内容へと改善に努めている。また、カリキュラムの編成体制については、教育目標に添ってカリキュラムの企画立案に取り組んでいる。

「授業シラバス」については、授業開始時の担当教員からの配付に加え、学生がいつでも確認できるよう各クラスに全科目分を集約したファイルを設置し、周知を図っている。

【課題】

教育理念、教育目的及び育成人材像については明示されており問題はないが、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーのうちカリキュラムポリシーを図式化したカリキュラムツリーを整備したので改善された。

ただしコマシラバスの記述方法にバラつきがあり記述方法の周知が不足しておりさらに改善が必要。

【今後の取組み】

各学科カリキュラムツリーを作成した。今後のカリキュラム再編時は随時更新していく。常勤、非常勤を問わず、コマシラバスの記述を徹底し、大きな差異がでないよう継続的に整備する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-2-1	教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	S
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容（学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等）が提供されているか。	S
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	A
3-2-4	教育方法および学習指導は適切か。	A
3-2-5	授業はシラバスに基づいて授業が展開されているか。また学校構成員（すべての教員、職員、学生）に周知を図っているか。	A
3-2-6	リメディアル（導入前教育、補習）教育を行っているか。	S
3-2-7	専攻分野における実践的な職業教育（インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等）が体系的に位置づけられ、実施しているか。	S
3-2-8	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	S

中項目 3-3

教育の評価を適切に行っているか。

【総括】

教育の評価について教育課程編成委員会（年2回実施）で、外部委員から、卒業生に関する情報や評価を得ている。在校生に対しては、前期・後期ごとに「授業アンケート」「ホームルームクラスアンケート」を実施し、ディプロマポリシーに基づいた授業、クラス運営等に対する教育活動の評価を実施している。

また、卒業年次に関しては「卒業時アンケート」を実施し、在学中の教育全体の満足度を可視化している。さらに本年度より授業見学のフィードバックをもとに、継続的に各教員が後期授業開始前に改善目標を設定し、取り組んでいる。

また、有識者や校長代行による授業見学、オンライン授業の録画など、授業内容を第三者に公開する環境も整っている。

【課題】

授業評価の実施や、評価体制はある。それらの結果に基づいて、学科ごとの授業内容の検討は常時行っているが、口頭での改善活動で、「授業アンケート」などの評価結果に対して検証・改善の記録が残せていない。

【今後の取組み】

「授業アンケート」「ホームルームクラスアンケート」「卒業時アンケート」実施による評価結果に対する検証・改善の記録を残す。学科ごとの授業内容の検討については任意で授業内容検討会議を開き、議事録を残す。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-3-1	授業評価の実施・評価体制はあるか。	S
3-3-2	授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	A

中項目 3-4

成績評価と単位認定を適切に行っているか。

【総括】

学校教育法に定められた授業時間数を満たすカリキュラムを体系的に編成した内容であり、学内で定められた成績評価基準に従い適切に評価を行っている。シラバス書式が改訂され科目ごとの評価基準がより明確にされた。成績評価、単位認定、進級・卒業判定の基準を規定として定めている。

またそれらについて学生便覧などを通じて明示している。以上の規定に基づき、年度末には卒業判定会議、進級判定会議を実施し卒業・進級判定をおこなっている。

【課題】

コロナ禍で授業を例年通りに実施できない期間もあり、さらに対面授業からオンライン授業への切り替えの影響で年度当初の予定通りにスケジュールはすすまなかったが、授業を行う期間を変更して年度末までに授業時間数を予定通り満たす予定。

【今後の取組み】

今後コロナ禍の状況が長期化する可能性があるため、次年度に向け必要に応じ授業時間数を満たすためのカリキュラム体系を改善する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	S
3-4-2	各規定に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	S

中項目 3-5

教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教職員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【総括】

教員の組織配置については法令に則り、全学科担当科目の専門性を考慮した資格、経験等を参考に採用し、必要とされる資格を所持した教員を配置しており現状問題はない。教員の専門性や指導力等の維持、資質向上のための施策としては、法令に則った資格・要件を備えた教員を確保し、分野ごとに必要な教員体制を整備している。教育力向上のための活動として、各教員の共通分野、専門分野について計画的に学内外で実施される研修へ参加し、報告書を記録し改善のための資料としている。

また今年度はオンラインによる研修の実施が多く、移動時間や交通費も取られなかったため、参加した研修が例年より多い。

【課題】

新型コロナウイルスの影響により外部での研修参加が難しい面もあったが、オンラインにて実施される研修に積極的に参加し改善に努めた。今後も中長期的により適正な人材育成を図っていく必要がある。

【今後の取り組み】

外部機関の実施する研修の利用やグループにて実施される研修機会を積極的に活用することで、教職員のブラッシュアップを図り、適切な教育体制の整備を行っていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-5-1	法令に則りかつ学校の理念・目的の達成に必要な教育課程の種類・分野・学生数を考慮しながら必要な教員組織を構築しているか。	S
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	A
3-5-3	教員の専門性や指導力等の維持、資質向上のための方策を組織的、多面的に実施し、教職員及び組織の改善につなげているか	S
3-5-4	教員に対して、実務に関する研修等を企業等と連携して行っているか。	S

基準 4 学修成果

中項目 4-1

学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

【総括】

学生のキャリアプランに関しては、入学時より教員及び就職担当が計画的に取り組んでいる。学科ごとに国家資格試験や各種検定、コンテストの入選数を年度当初に設定し、共有及びフォルダに適切に保管を行っている。また、教育活動および学生支援の改善を図るために各担当者・学科内にて振り返りを行い、次年度のシラバス作成に活かし、改善活動に努めている。

卒業生の動向調査は、卒業生の来校時の情報提供、元担任からの報告から多くの社会的活躍が伝えられている。定期的に全国の卒業生訪問を行い、在籍動向及び評価の把握をおこなっている。

退学については、学生が退学を希望してきたとき、またはそれに近い状態になった際（欠席の増加など）に、三者面談を実施し、原因の調査・解決を行っている。

【課題】

十分な情報収集はできているが就職部の負担が多い。より効率・効果的な情報収集の実施と改善に継続的に取り組む必要がある。

【今後の取組み】

企業訪問や卒業生への就職先アンケートから得た調査結果をもとにより正確に教育活動および学生支援の改善を図るために各担当者・学科内にて振り返りを行い、改善計画を立て、次年度のシラバス作成に活かし、改善活動に努める。

就職部が担当し、そのアンケートなどの調査結果を教務に報告・連絡を継続。それを基にカリキュラムについても検討する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上と取組みの成果を上げているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか	A
4-1-2	資格取得率・資格試験および公務員合格率・コンテストおよびコンペ入選の向上と取組みの成果を上げているか。また結果を分析し、教育活動および学生支援の改善を図っているか。	S

4-1-3	資格取得等に関する実施体制およびカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	S
4-1-4	退学率の低減の取組みが図られているか。また結果を分析し、退学率の低減の改善を図っているか。	S
4-1-5	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への適応性、効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	S
4-1-6	卒業生の専攻分野における社会的評価を把握しているか。	S

=====
基準 5 学生支援
=====

中項目 5-1

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【総括】

学生が安定した学生生活を送ることができるように、学校全体でサポートする体制を整備している。学内にスクールカウンセラーを配置し、希望する学生にはカウンセリングを実施。また、健康面では毎年健康診断を受診している。

経済的なサポートに関しては、授業料減免制度、麻生進級支援制度、日本学生支援機構奨学金を全学生に案内し、支援の充実を図っている。

留学生支援としては、在留カードの更新など担当職員を配置し、取り次ぎ申請を行っている。

卒業生支援に対しては卒業後、再就職斡旋を希望する学生には登録会を行い、個別対応にて再就職の斡旋を行っている。

【課題】

現在、課題は特にない。留学生の入学に際して、経済的支援はもちろんのこと、生活面でのサポートが必要になると考えられる。

【今後の取組み】

留学生のサポート内容について、国際交流センター、日本語学校や本校の留学生から意見も収集し、具体的内容を継続して構築していく。学生相談などの件数や記録を教務室等に常時残しておく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
5-1-1	学生への修学支援を適切に行っているか。	S
5-1-2	学生の進路支援を適切に行っているか。	S
5-1-3	学生相談に関する体制を整備しているか。	S
5-1-4	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	S
5-1-5	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	S
5-1-6	学生の生活環境への支援を行っているか。	S
5-1-7	保護者との連携を適切に行っているか。	S
5-1-8	卒業生・社会人への支援体制を整備しているか。	S
5-1-9	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	S

=====

基準 6 教育環境

=====

中項目 6-1

教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

【総括】

教育施設・設備については教育上の必要性に対応し、かつ教育運営に支障を生じさせないように、毎年各分野担当者へのヒアリングを実施している。その後精査され必要に応じて整備、維持、管理される。教育機材と備品についても、数量不足や使用不備が発生しないように状況に応じて交換や追加購入を行っている。また図書コーナーに業界誌、就職活動参考図書等を設置し、教職員・学生が利用できる状態にしている。

【課題】

教育運営に支障を生じさせないように、必要性に対応した機材・備品は整備されているが、それらを証明するために PC 関連の台帳はあるものの、それ以外の備品の台帳については十分でないため今後さらに整備する必要がある。

【今後の取組み】

教育運営に支障を生じさせないように、継続的に必要性に対応した機材・備品は整備する。特にそのエビデンスとなる整備台帳などが十分でないためさらに整備を行う。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	A
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	A
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	S

中項目 6-2

教育環境を適切に維持しているか。

【総括】

分野によって異なるが、インターンシップを実施するにあたっては、実施要綱、マニュアルなどが整備され計画的に運用されている。またカリキュラムとしてインターンシップについての科目があり、単位認定が認められている。

また、学校における安全管理について、防災、防犯設備の点検や避難経路の掲示、火災・地震発生に対する避難を訓練実施している。火災・地震発生に対する避難訓練の実施や、学内の防災対策組織の編成を行っており、設備管理者の一覧表、各種設備の定期点検票、危機管理マニュアルを整備し管理している。

また、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策の一環とし、登校前の自宅での検温と学校での入館時の検温、学生自己健康管理票への記入及び定期的な提出、マスク着用を義務づけるなど感染予防に努めた。

【課題】

コロナ禍で、インターンシップ、海外留学も中止され実施はできていない。次年度も状況次第では困難な状況が見込まれる。

【今後の取組み】

インターンシップや海外留学は外的要因により困難な状況が見込まれるが、継続的に教育環境の維持に努めていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-2-1	実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	A
6-2-2	学校における安全管理の整備を行っているか。	S

基準 7 学生募集

中項目 7-1

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【総括】

アドミッションポリシーを募集要項にて公表し、適正に募集活動を実施している。選考方法は募集要項に明記し、かつ選考基準を定め、適正に入学者選抜を行っている。法人の財務状況などを考慮しながら健全な校納金や入学金の設定を行っている。金額変更などの決定事項は議事録に記載し、校納金シートや募集要項へ正確に反映させるとともに関係部署への情報共有を行っている。

学生納付金等については、法人の財務状況などを考慮しながら適切な校納金や入学金の設定を行っている。

【課題】

特になし。

【今後の取組み】

適正な募集活動の継続実施を行うため、選考方法、選考基準等についても毎年見直しを図り、適正かつ公平な入学選抜の実施に努めていく。また、法人の財務状況などを考慮しながら適切に入学金、校納金の設定を行っていく。引き続き、妥当な学生納付金となっているか確認に努める。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
7-1-1	入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を策定し、学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表しているか。	S
7-1-2	募集活動において、教育成果は正確に伝えているか。	S
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	S
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	S
7-1-5	学生納付金等は妥当なものとなっているか。	S

基準 8 財務

中項目 8-1

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【総括】

財務諸表等に見る学校の財務基盤は安定しており、学生に必要なかつ快適な教育環境を提供できる財務体質を備えている。学校の財務面の管理運営については、予算計画を策定し、月次における予算決算管理および昨年度対比による分析を必要に応じて行っている。分析の中で重要な差異が生じた場合等には原因の特定や問題点の把握等を行い、適切に対応している。監査の実施については、私立学校法及び寄付行為に基づき監事による会計監査が適切に行われており、監査報告書を受領している。情報の公開については、ホームページにて貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書を適切に公開している。

【課題】

特になし。

【今後の取組み】

今後も予算決算管理及び昨年度対比による分析等の取り組みを継続的に行っていく。その分析等により重要な差異や変動を把握するとともに、対応策の検討、実施により、外部環境の変化等に耐え得る安定した財務基盤の維持を図っていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	S
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また予算執行を分析・検証する仕組みの確立がなされているか。	S
8-1-3	私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	S
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	S

基準 9 法令遵守

中項目 9-1

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【総括】

専修学校設置基準、福岡県私立専修学校設置認可取扱基準を遵守し学内規定が規定されており、学校として遵守の体制を整え、教職員へ周知している。また、個人情報、ハラスメント防止、危機管理についての関係法令に基づき規定を定め、学校として遵守の体制を整え、教職員へ周知している。

【課題】

法令に関する情報更新が教職員全てに熟知されているかを、確認する機会がないため、研修の中でフィードバックを実施する必要がある。

また、教職員、事務職員に常時掲示されている危機管理マニュアルが最新のものに更新されていない事例が発生している。

【今後の取組み】

関係法令に関する情報共有の継続と、教職員が定期的に研修会へ参加し、学内へのフィードバックを図る。危機管理マニュアルは、リスクマネジメント委員に属する職員が、常に最新のものに更新していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	S
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	A

基準10 内部質保証

中項目10-1

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【総括】

学校教育、学校運営については、自己点検・評価を実施し改善点を洗い出し、要改善項目を中心に改善活動を実施した。学校関係者評価の実施体制については整備されており、会議にて改善のための意見をいただき外部よりの提言として学校運営に反映させている。

自己点検・評価及び学校関係者評価の結果はホームページにて公表し、社会に対する説明責任を果たしている。

【課題】

自己点検・評価活動についてこの数年間で教職員への周知は広まった。しかし、まだ限られた教職員により実施されているのが現状である。教職員へのよりいっそうの周知が求められる。

【今後の取組み】

継続して自己点検・評価活動についての可視化への取組みを行う。教職員への自己点検報告書など関連資料の回覧、所在の明確化を行い周知徹底する。さらに改善活動へと生かす。自己点検・評価活動については各自に回覧し、周知徹底を実施する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
10-1-1	学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、さらに課題解決に取り組んでいるか。	A
10-1-2	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、改善の取組みを行っているか。	S
10-1-3	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	S

基準 1 1 社会貢献・地域貢献

中項目 1 1 - 1

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【総括】

学校運営に必要と判断した場合積極的に団体へ加盟しており、現在は、北九州市産業経済局企業立地支援課と常に連携し、協議も実施している。高校などに出向いての公開講座の実施、また、行政と連携した北九州高校生イラストコンテストを実施するなど社会的活動、地域貢献活動を行っている。

【課題】

コロナ禍で出張授業や来校連携授業をほとんど実施できていない。ただ、北九州高校生イラストコンテストは今回も実施、社会的活動、地域貢献活動を行った。

【今後の取組み】

次年度もコロナ禍では実施が困難な可能性が高い。状況が好転すれば出張授業、来校連携授業なども実施する。実施された際には、第三者にもわかりやすいよう、実施状況について明瞭表示されたものを作成する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1 1 - 1 - 1	公共的な機関として、社会貢献・地域貢献を行っているか。	A
1 1 - 1 - 2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	S

基準 1 2 国際交流

中項目 1 2 - 1

留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか。

【総括】

留学生を受け入れるにあたっての国際交流センターと連携。法令を遵守し、適切に在留手続きを行っている。在籍管理、相談体制については日本人学生とほぼ同様に受け入れ態勢を整備している。

また、在学中の学生対象の海外留学プログラムに対する支援を行っており、学生や保護者に対して説明会を行っている。実際に留学する際には安全管理規定を定め管理体制を整備している。

また、2020年度はコロナ禍の影響で、海外留学プログラムを実施することができなかったが、個人面談等を頻繁に実施し、学生・保護者の要望（復学・留学待機）をしっかりと把握。心配や不安を抱かせないように、担当者と学生・保護者とのしっかりとコミュニケーションを取るよう努めた。

また、各国の留学生受入れ状況を常に把握し、将来の留学の可能性に向けて常に最新情報を「留学通信」という紙媒体を通じて学生・保護者へ共有するよう務めた。

【課題】

留学生からの相談時記録がないとの指摘があり、留学生も日本人学生と同様、学生ガイダンス表での記録を心がけたが、今年度の留学生からの相談はなかった。

またコロナ禍で海外への留学も本年度実施は全て見送りになった。

【今後の取組み】

留学生の受け入れ、在籍管理の組織担当割、留学生とのガイダンス記録表の記載を継続的に行う。また海外留学希望者には引き続き案内とサポートを実施する。

麻生キャリアサポートや語学学校とのアグリーメントに関しては、内容の見直しや業務分担の明確化を行う。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
1 2 - 1 - 1	留学生の受入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っているか。	S
1 2 - 1 - 2	留学生に対する相談体制を整備しているか。	S
1 2 - 1 - 3	海外留学プログラムに対する支援を適切に行っているか。	S